

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

10月下旬、特別養護老人ホーム白嶺で長寿社会開発センター白馬・小谷グループのメンバーが落ち葉片づけ作業を行った。強い寒

風もなく、霜も降りなかったため落ち葉も少なく作業は短時間に終了した。シニア大学卒業生で構成するグループで、会員お互いの日々を楽しく語り合える時でもある。特に今回は、地域に出没する熊やサル。

生活圏に入りすぎなのか」との考え方が発想できる生き方が、シニア大学での学びの力なのだろう。

会を迎える時に、いざ学びたいときに高齢化に伴う身体的要因で行動範囲が限られる事を考えてほしい。「私たちが普段、時計やカレンダーで時間を計る。でもそれはあまり意味がない事だ」とミヒヤ

紹介している。是非、来年はシニア大学の学びを体験して、これらの生き方を見つめ直してほしい。

10月中旬に山梨県サントリー白州蒸留所を訪ねる機会があった。ニッカウヰスキーの創業者夫婦の生涯を描いた朝ドラ「マッサンの記憶や

て作った銘柄で、この場所では簡単に購入できると思った浅はかさをつくづく感じてしまった。

(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)

高齢化社会の中で過ごす学びが大切だ

イノシシの話 題。「八方地区では店に進入

した」、「岩岳では、大量の野菜がサルの被害に」、「イノシシの被害が深刻だ」次々と語られる地域の話題。「動物たちの食料不足が原因なのでは」、「動物と共生できる仕組みはないのか」、「人間が動物

代になってきている。「とてもシニア大学に行く時間は取れない」との声もある事も事実だ。働けるだけ働いてから、次の事を考えていくと、人生設計を考えていていいのだろうか。ますます高齢化社

エル・エンデの「モモ」にそんなセリフがある。同じ一時間でも、何をしたかで永遠に感じたり、ほんの一瞬に思えたりするからと、「時の価値の過ごし方次第だ」と日本経済新聞のコラム春秋さんが

2015年から国際的な賞を総なめにしているジャパニーズウイスキーへの訪問だった。海外からも熱い視線で、とんでもないプレミアム価格の取引情報もあり、場内直売店へ直行。だが楽しみにし



ボランティア活動での情報交換も 楽しく生きる技だ